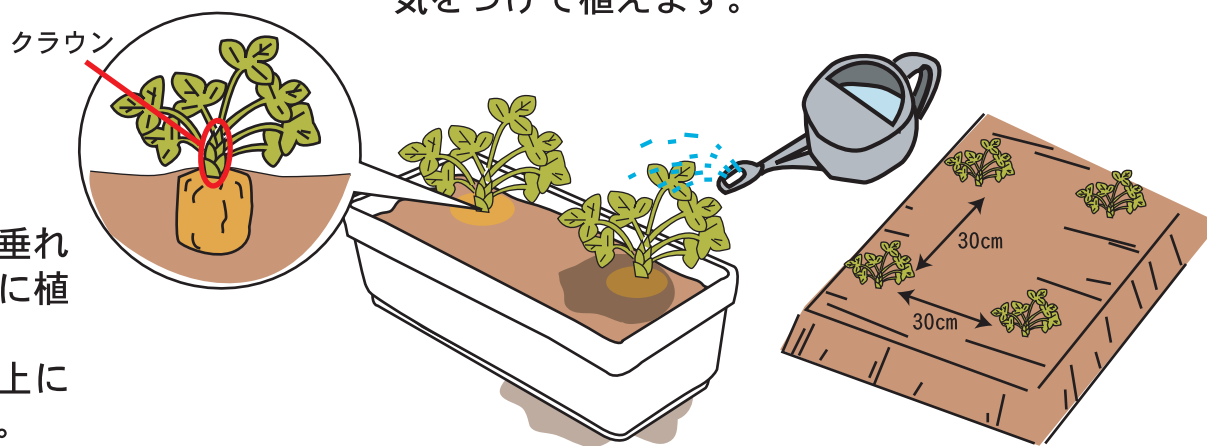


イチゴの上手な作り方

1 土作り・定植

■プランターに定植する場合

- ①肥沃な土を好むので、園芸用培土に有機肥料を加え、よく混ぜ合わせます。(あらかじめ肥料が入っている場合は必要ありません。)
- ②プランターの鉢底に赤玉土を敷き、①を入れます。
- ③650型プランターに2本を目安に植えて、十分に灌水します。
収穫時にプランターから果実が垂れるように、苗はプランターの端に植え付けましょう。
葉の付け根のクラウン部分が地上に出るように気をつけて植えます。

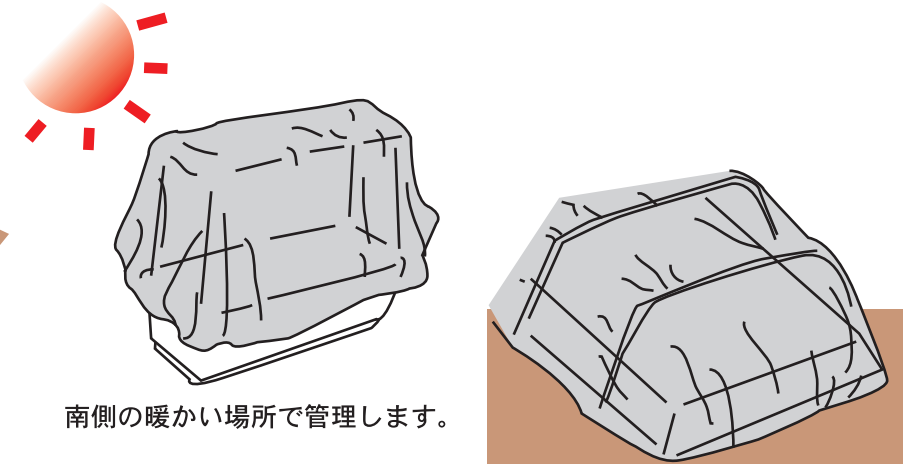


■畑に定植する場合

- ①定植の2週間前
苦土石灰をまいてよく耕します。(1㎡に100g)
- ②定植の1週間前
堆肥と肥料を混ぜてよく耕し、畝を作ります。
(1㎡に堆肥3L・肥料100g)
- ③葉の付け根のクラウン部分が地上に出るように気をつけて植えます。

2 追肥・防寒

- ④追肥は、11月と3月の2回行います。
液体肥料または化成肥料を施します。
- ⑤冬は不織布などで覆いをすると、株の痛みが少なくなります。



3 葉かき・花摘み

- ⑥冬の寒い間は下葉が赤くなり、枯れてきます。
早めに付け根からかき取りましょう。
- ⑦低温時に早めに咲いた花は、果実の期待はできません。早めに摘み取ります。

病害虫について

低温期のうどんこ病・炭素病に注意します。

また、春先にはアブラムシが発生しますので、殺虫剤の使用をおすすめします。



4 敷きわら・授粉

- ⑧開花期になったら、株の周りに敷きわらをします。
土の乾燥を防ぐとともに、果実が汚れるのを防ぎます。
- ⑨実付きを良くするためには人工授粉を行います。午前中に乾いた絵筆で軽くなでて授粉させましょう。
(蜂が来て自然交配すれば必要ありません。)



5 収穫

- ⑩5～6月が収穫期で、開花後およそ30日が目安です。果実が赤く熟したものを収穫します。

